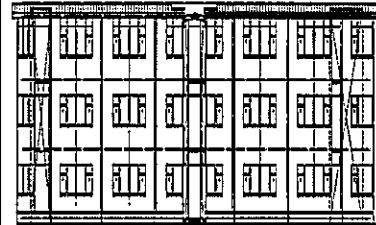


CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_評価版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v2.3.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	府営住宅城南団地整備事業(第3号棟・第4号棟)建設工事	階数	地上3F
建設地	京都府城陽市寺田林ノロ11-87,深谷1,89-1,89-2の各一部	構造	S造
用途地域	第一種低層住居専用地域、防火地域指定なし	平均居住人員	57 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年3月 予定	評価の実施日	2024年11月11日
敷地面積	3,519 m ²	作成者	北川 廣次
建築面積	1,260 m ²	確認日	2025年2月15日
延床面積	2,757 m ²	確認者	京都府 知事 西脇 隆俊



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE = 1.5 ★★★★★☆ S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★ 環境効率 環境負荷 L	★☆☆☆ ★☆☆☆ ★☆☆☆ ★☆☆☆ ★☆☆☆ 30%: ★☆☆☆ 60%: ★☆☆☆ 80%: ★☆☆☆ 100%: ★☆☆☆ 100%超: ★ 標準計算 ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+ このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。 (kg-CO₂/年・m²)	Q2 サービス性能 Q1 室内環境 Q3 室外環境 (敷地内) LR1 エネルギー LR2 資源・マテリアル LR3 敷地外環境

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q のスコア = 3.2		
Q 環境品質 Q1 室内環境 Q1のスコア = 4.1 音環境 温熱環境 光・視環境 空気質環境	Q2 サービス性能 Q2のスコア = 2.7 機能性 耐用性 対応性	Q3 室外環境 (敷地内) Q3のスコア = 2.5 生物環境 気候・気象 地域性・社会性
LR のスコア = 3.5		
LR 環境負荷低減性 LR1 エネルギー LR1のスコア = 4.3 建物外皮の 自然エネルギー 設備システ 効率的	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.0 水資源 非再生材料の 汚染物質	LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.1 地球温暖化 地域環境 周辺環境

3 設計上の配慮事項		
総合 利用者に配慮し、F☆☆☆☆を使用している。 ライフサイクルCO₂排出率の低減に努め、地球環境保護に配慮している。	その他 特になし。	
Q1 室内環境 日本住宅性能基準「5-1断熱等性能等級」における等級5相当である。 2.0% ≤ [風光率] カーテンと庇にて是光制御している。	Q2 サービス性能 ケーブルラック内配線、配管内配線により構造材・仕上材を傷めずに更新・修繕ができる。	Q3 室外環境 (敷地内) 特になし。
LR1 エネルギー BEI=0.59 エネルギー消費に関する表示機器、負荷低減装置等を採用している。	LR2 資源・マテリアル ODP=0, GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO₂排出率80%。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される